



kaminorippo.org

付録8d: 清めの律法 — なぜ神殿なしでは守ることができないのか

このページは、エルサレムに神殿が存在していた時にのみ守ることが可能であった神の律法を探究するシリーズの一部です。

- [付録8a: 神殿を必要とする神の律法](#)
- [付録8b: いけにえ — なぜ今日それを守ることができないのか](#)
- [付録8c: 聖書の祭り — なぜ今日そのいずれも守ることができないのか](#)
- [付録8d: 清めの律法 — なぜ神殿なしでは守ることができないのか](#) (現在のページ)。
- [付録8e: 十分の一と初物 — なぜ今日それらを守ることができないのか](#)
- [付録8f: 聖餐 — イエスの最後の晩餐は過越であった](#)
- [付録8g: ナジル人と誓願の律法 — なぜ今日それらを守ることができないのか](#)
- [付録8h: 神殿に関わる部分的・象徴的な服従](#)
- [付録8i: 十字架と神殿](#)

トーラーには、儀礼的な清さと汚れに関する詳細な律法があります。これらの戒めが廃止されたことは一度もありません。イエスもそれらを取り消されませんでした。ところが神は、イスラエルの不忠実さへの応答として、神殿、祭壇、祭司職、そしてご自身の現された住まいを民の中から取り除かれました。その取り除きの結果、清めに関する戒めは今日守ることができません。

私たちは弱い被造物にすぎませんが、神は選ばれた民への愛のゆえに、何世紀にもわたりイスラエルのうちにご自身の臨在を確立されました(出エジプト記 15:17; 歴代誌第二 6:2; 列王記第一 8:12-13)。しかし西暦70年以降、その聖さが現され、そこで人々がそれに触れていた神殿は、[もはや存在しません](#)。

律法が命じていたこと

律法は、清い(טהור — **tahor**)状態と汚れた(טמא — **tamei**)状態という、現実の法的区分を定めました。人は、普通に避けがたい日常の事実によって汚れた状態になり得ました。たとえば出産(レビ記 12:2-5)、月経やその他の体液の漏出(レビ記 15:19-30)、死体への接触(民数記 19:11-13)です。これらは罪の行為ではありません。罪責を伴いません。ただ、聖なるものに近づくことを制限する法的状態にすぎません。

そして律法は、これらの状態のそれぞれに対し、清めの手続きも命じました。夕方まで待つだけでよい場合もあれば、洗いが必要な場合もあります。さらにいくつかの事例では、祭司の関与といけにえが必要でした。重要なのは、イスラエルが「汚れた気がした」かどうかではありません。重要なのは、神がご自身の聖さの周りに現実の境界を法として定められたという点です。

そもそも、なぜこれらの律法が存在したのか

清浄の体系が存在したのは、神が、定められた聖なる空間においてイスラエルの中に住まわれたからです。トラー自身理由を示しています。イスラエルは汚れから守られねばならず、それは神の住まいが汚されないため、また汚れた状態で聖なる臨在に近づいて死ぬことがないためでした(レビ記 15:31; 民数記 19:13)。

つまり、汚れの律法は生活習慣でも健康アドバイスでもありません。それらは聖所の律法です。狙いは常に同じで、神の住まいを守り、そこへの近づき方を規制することでした。

神殿は、単なる場所ではなく管轄であった

聖所は、宗教活動が行われる便利な建物にすぎなかったのではありません。それは、多くの清めの律法が効力を持つ法的な領域でした。汚れが問題となったのは、守るべき聖なる空間があり、守るべき聖なる器具があり、保つべき聖なる奉仕があったからです。神殿は、一般のものと聖なるものの間に法的境界を作り、律法はその境界が保たれることを要求しました。

神がイスラエルの不忠実さへの応答としてご自身の住まいを取り除かれた時、神はご自身の律法を廃したのではありません。多くの清めの律法が執行され得る「管轄」を取り除かれたのです。住まいがなければ、規制すべき正当な「接近」はなく、汚されないよう守るべき聖なる空間もありません。

主要な律法と、封じ込めの手順

レビ記15章には、家庭レベルの詳細が多く含まれています。汚れた寝具、汚れた座る場所、洗い、そして「夕方まで汚れる」などです。これらの詳細は、永続的な生活様式を築くための独立した戒めではありませんでした。それらは、汚れが神の住まいに達して聖なるものを汚染しないようにするための封じ込め手順でした。

だからこそ、これらの手順は、今日、単独の「信心」として意味を持ちません。守るべき聖所がないまま再現するのは服従ではなく、象徴的模倣です。神はご自身の体系の代用品を決して許可されませんでした。神ご自身が取り除かれたとき、まだ聖なる住まいが立っているかのように装うことに、神への栄誉はありません。

通常の月経

通常の月経は、トラーの汚れの中でも独特です。予測可能で、避けられず、時間の経過だけで解消されるからです。女性は七日間汚れ、彼女が横になったり座ったりしたものは汚れとなり、それらに触れた者は夕方まで汚れます(レビ記 15:19-23)。その期間に男性が彼女と同じ床に伏すなら、その男性も七日間汚れます(レビ記 15:24)。

この、時間で解消される通常の汚れは、祭司も、いけにえも、祭壇も必要としませんでした。その法的目的は、聖なる空間への接近を制限することでした。このため、これらの律法は日常生活を妨げたり、エルサレムへの継続的近接を要求したりはしませんでした。清い／汚れたという区分が重要であったのは、神の住まいが存在し、そこへの接近が神の律法によって統治されていたからです。住まいが取り除かれた今、これら家庭の清め規定は、正当な適用を持たなくなり、したがって今日守ることはできません。

重要な確認: 月経中の女性との性的関係を禁じる命令は、これとは別の律法です。これは清めの手続きではなく、その意味や執行は神殿に依存しません(レビ記 18:19; レビ記 20:18)。この性的禁令は非常に重大であり、今日も守られるべき別個の命令です。

異常な出血

通常の月経周期の外にある出血は別に分類され、完了には神殿に依存する手続きが必要でした。女性は出血の間ずっと汚れ、出血が止んだ後、日数を数え、その後、聖所の入口で祭司に供え物を携えて行かなければなりません(レビ記 15:25-30)。これは「時間だけ」の区分ではありません。祭司と供え物の区分です。したがって、今日守ることはできません。神が、それを完了するために必要な体系を取り除かれたからです。

死体による汚れ

死者に触れることは、聖所を直接脅かす重大な汚れを生み出しました。トラーはここを極めて厳粛に語ります。住まいを汚した汚れた者は断たれるべきであり、その汚れは神の聖なる空間に対する直接の侵害として扱われました(民数記 19:13; 民数記 19:20)。定められた清めの方法は、神が任命された手段と、機能する聖所の枠組みに依存していました。神殿の管轄がなければ、この区分は戒めに従って正当に解決され得ません。

神がご自身の住まいを取り除かれた時、何が変わったのか

神は、神殿、祭壇、レビ系祭司職を、裁きとして取り除かれました。その取り除きにより、清浄の体系は法的領域を失いました。守るべき聖なる空間がなく、規制すべき正当な接近点がなく、律法が祭司の関与を要求する場合に必要な、任命された祭司職もありません。

それゆえ、清めに関する戒めは今日、実践できません——律法が終わったからではなく、神がそれらに法的効力を与えていた管轄を取り除かれたからです。律法は今も立っています。神殿は立っていません。

なぜ象徴的な「清め」は不服従なのか

ある者たちは、神の体系を私的儀式、「霊的」な洗い、あるいは家庭内の作り物の再現で置き換えようとしています。しかし、神は代用品を許可されませんでした。イスラエルは、清めの新しい版を自由に即興で作り出してよいわけではありませんでした。服従とは、神が選ばれた場所で、神が任命された僕たちを通して、神が命じられたとおりに正確に行うことでした。

神が服従の道具を取り除かれるとき、忠実な応答は模倣ではありません。忠実な応答とは、神がなさったことを認め、発明を拒み、現時点では実行できない戒めを尊ぶことです。

結論

清めの律法が廃止されたことは一度もありません。これらは、神がイスラエルの中に住まれ、その聖なる臨在への接近を規制されたために存在しました。イスラエルの不忠実さへの応答として、神はご自身の住まい、神殿、祭司職を取り除かれました。その取り除きの結果、聖所に基づく清浄の体系は今日守ることができません。私たちは、今も守れるものはすべて守り、神が不可能にされたものは、神の行為を尊重し、戒めを象徴的代用品で置き換えることを拒むことによって、尊びます。